

リ類の増殖学的研究, 第2報山口県日本海沿岸におけるクロノリ *P. Okamurai* UEDA の分布と形態の変異について. 山口県外海水試研究報告 2(1). 19) ———— (1960): イワノリ類の増殖学的研究, 第3報山口県日本海沿岸産オニアマノリとウップルイノリについて. 水産増殖 7(3). 20) 芳永春男 (1960): 山口県日本海沿岸産秋ノリについて (予報). 水産増殖 8(2). 21) 福原英司氏よりの書簡 (1960年6月6日付).

沖縄伊計島産タンポヤリについて**

大 城 肇*

H. OHOSIRO: Notes on *Chamaedoris orientalis*

筆者は1957年3月以来, 沖縄島中部東方にある伊計島の海藻を調べてきたが, 同島にタンポヤリの新産地を見出す事が出来たので, ここにその知見を報告する。

タンポヤリは1931年, 故岡村博士に依って台湾紅頭嶼から, *Chamaedoris orientalis* OKAMURA et HIGASHI と命名されて発表された。その後1934年山田幸男博士による沖縄島糸満からの報告があり, また1938年山田・田中両博士に依る琉球列島与那国からの報告がある。山田博士の糸満の材料は海底2尋の深所から採集された材料であるが, capitulum の部分が茎部より長く articulation の数も著しく多い事によって *C. orientalis* (?) と疑問符を付して報告された。いま岡村博士の紅頭嶼のもの, 山田博士の糸満から

表 1

項 目	岡 村 (1931)	山 田 (1934)
体 の 高 さ	7~9 cm	17 cm
頭 部 の 長 さ	2.6~10 cm	10 cm
茎 部 の 長 さ	茎部は常に頭部より長く, 4~6 cm	7 cm
頭 部 の 形	倒卵形一楕円形	円 柱 状
頭 部 の 節 の 数	頭部の長さにかかわらず同数で14節	28節

* 沖縄中央高校生物学研究室・琉球藻類研究グループ会員

** 九州大学農学部水産学教室業績

の材料との相違点を表にして示すと表1の通りである。

筆者は伊計島から採集した材料数十個について、この両博士の記述の相違点を考慮に入れて調査検討した。ここにその結果について報告したいと思う。材料は1957年3月、4月、1958年5月、1959年5月にわたって同島で採集したものである。この生育場所は同島の東西両海岸のもので、東海岸では干潮時で深さ約50cm長さ200m位の長いタイドプールの約10m²位の荒砂上に群落を形成して生育している。筆者はこの材料によって表2の観察

表 2

No.	項					目			
	全長	茎長	頭長	頭幅	茎径	節数	輪生枝数	頭部形状	
1	2.7	2	0.7	0.7	0.1	5	6	球	形
2	2.9	2	0.9	0.9	0.1	5	6	球	形
3	3.2	2.2	1	1.1	0.1	3	6	球	形
4	4.4	3.5	0.9	1.2	0.1	4	6	球	形
5	5	4	1	1.2	0.1	5	6	球	形
6	5	4	1	1.2	0.1	7	6	球	形
7	4.8	3.8	1	1.5	0.1	5	6	球	形
8	6.7	5	1.7	2	0.1	7	6	球	形
9	7.5	5	2.5	2.8	0.1	10	6	球	形
10	7.5	4	3.5	3	0.2	12	6	卵	形
11	7.5	5.3	2.2	1.7	0.1	11	6	卵	形
12	7.8	5	2.8	1.5	0.2	8	6	円	柱状
13	8.5	4.5	4	3.5	0.2	20	6	円	柱状
14	8.3	5	3.3	3	0.1	14	6	円	錐状
15	9.2	5.2	4	3	0.2	14	6	卵	形
16	9.5	5.5	4	3	0.1	12	6	円	錐状
17	10	4	6	3	0.2	18	6	円	柱状
18	10.1	5.3	4.8	3	0.2	12	6	卵	形
19	10.5	5	5.5	3.3	0.2	22	6	円	柱状
20	10.5	5.5	5	3.5	0.1	14	6	卵	形
21	7.7	5.5	2.2	1.8	0.1	8	6	円	錐状
22	11	3.5	7.5	3.2	0.2	20	6	円	柱状
23	11	6	5	3.5	0.2	18	6	円	柱状
24	12.1	5.1	7	2.3	0.2	22	6	円	柱状
25	13	5.5	7.5	3.2	0.2	22	6	円	柱状
26	14	7	7	3	0.2	21	6	円	柱状

調査結果を得た。

以上表の大要をまとめ、考察を行ないたい。体長は2.5 cm から16 cmのものまでである。生育地には5月に小さいものから大きいものまで同時に見られ、かつ老成しているものも見られた。茎の長さは岡村博士によると、頭部より常に長いと記録されており、一方山田博士の材料では頭部の方が茎部より長い。筆者の生育地における観察では茎部の方が長いものや頭部が長いものがあるが一定しない。頭部の外形は球形、円錐形、倒卵形のは多くは茎部が長く、円柱状のものには頭部の方が長い傾向がある。また筆者の材料ならびに現地観察では岡村博士の「日本藻類図譜」第六巻10, 11 図版の形態をしたものは1本もなく小さいものは凡て球形をしている。次に頭部の関節の数であるが、岡村博士は頭部の長短にかかわらずすべて14節であると報告しており、山田博士の材料では28節と記録されている。筆者の観察調査の結果では関節の数は頭部の長さに関係がありこれをグラフで表わすと図Iのようになる。

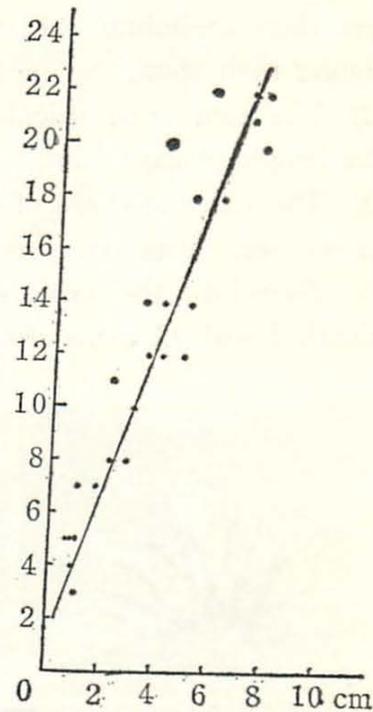


図 I

結局節の数は頭部の長短によって増減する傾向にあると云う事が出来る。なお頭部の長短及び形状は関節の数の他に各節から出る輪生枝の長短と関係あると考えられる。

さきに述べたように岡村博士の材料はすべて14節と記載され、山田博士の材料は28節であるところから山田博士は同種かどうかと疑われた。筆者の材料では26個体のうち14節のものは3個体あり山田博士の材料の28節をもつものとの間に9個体も見られ、節の数は不定で変化するものである事が想像される。この観察から両博士の材料が同種であると結論するのは早計であろうか。

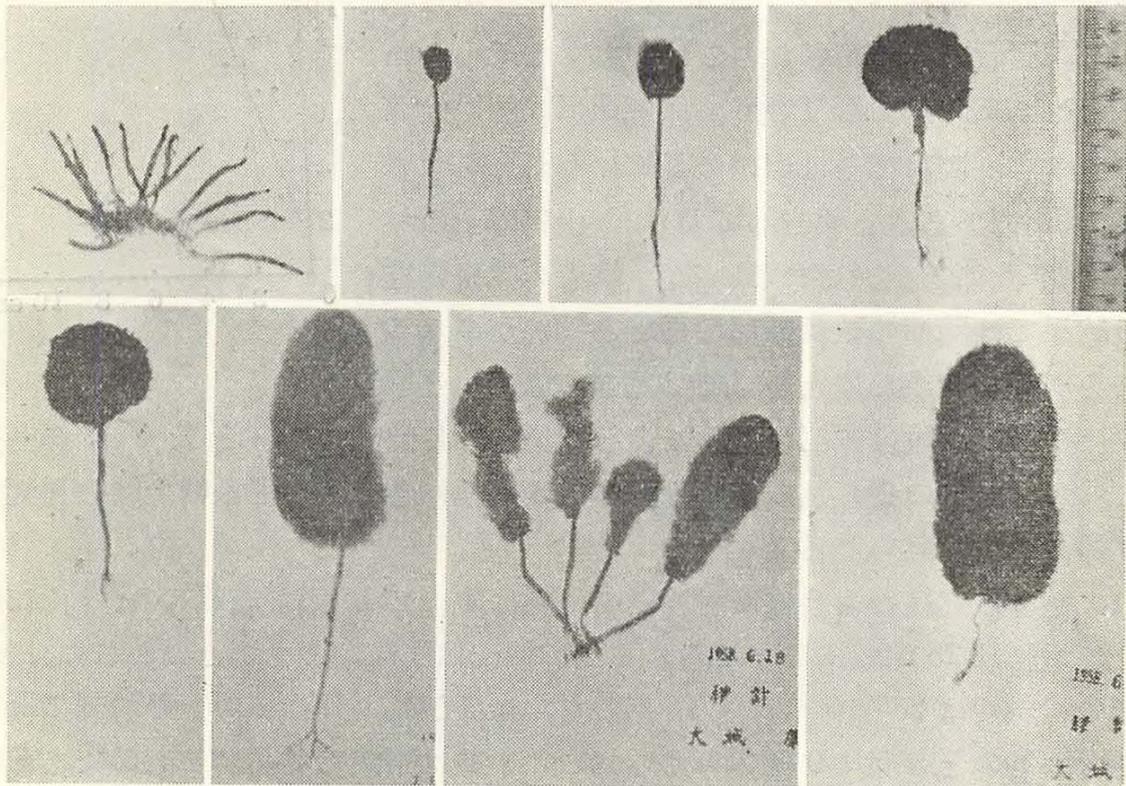
ここに終始直接間接の懇切な御指導下さった、北海道大学理学部植物学研究室の山田幸男博士、九州大学農学部水産植物学研究室の故瀬川宗吉博士並びに助言をいただいた同研究室の吉田忠生氏に感謝の意を表す。

Summary

The writer's observations on *Chamaedoris orientalis* collected from Ikei zima, Okinawa are summarized as follows:

- (1) Proportion of the length of stem to that of capitulum varies according to the shape of capitulum. In the specimens bearing spherical capitulum, the stem is longer than capitulum and when the capitulum is cylindrical, capitulum is, as a rule, longer than stem.
- (2) The number of articulation of capitulum is indefinite, and has a relationship to the length of capitulum.
- (3) The size and shape of capitulum are due to the number of articulation and size of the verticillate filaments arising from each articulation.

Therefore, the writer considered that *C. orientalis* (?) described by YAMADA is identical with *C. orientalis* OKAMURA et HIGASHI.



The specimens of *Chamaedoris orientalis* OKAMURA et HIGASHI from Ikei zima, Okinawa.